



海上保安大学校
JAPAN COAST GUARD ACADEMY





海上保安大学校とは

海上保安大学校は、将来、海上保安庁の幹部となる職員
の養成、国際海洋政策に関する研究を実施しています。



授業風景



乗船実習



総合指揮訓練

三
 仰ぐ徽章の 航針は
 海に頼める 日本
 前途を担う 我が使命
 燃ゆる希望に 血はたぎり
 海上保安の 理想も高く
 励む四年に 光あれ

二
 炎天橋を 焦がす日も
 疾風帆布を 裂かむ夜も
 海を護らむ ますらをが
 鉄と鍛ふる この腕
 仁愛正義の 誓も固く
 熱き情けに 培はむ

一
 瀬戸の島 山紫に
 にほふ苗の 呉の浦
 清き磯部に ひるがえる
 ああ憧憬の 旗の下
 磨く心も 鏡と澄みて
 学びの道に いそしまむ

海上保安大学校 校歌

作詩 永江新三
 修正 岡本明
 作曲 高田信一

教育方針

海上保安を取り巻く環境は、日々、複雑・多様化、国際化、かつ、高度情報化が一段と進展し、幅広い知識と技術が要求されている中、次の「教育方針」のもと一環教育を実施しています。

1 人格の陶冶とリーダーシップの涵養

2 高い教養と見識の修得

3 強靱な気力・体力の育成



宣誓(入学式)

教育課程

■ 本科 4年間

- 一般教養並びに海上保安業務に必要な高度な学術及び技能を教授

■ 専攻科 6ヶ月

- 本科を卒業後、海上保安業務に必要な専門的な学術及び技能を教授(遠洋航海実習を含む)

■ 初任科 1年間

- 採用後、航海又は機関の各専攻に分かれ研修(乗船実習を含む)を実施修了後は特修科に編入

■ 特修科 1年間

- 部内試験により選抜された職員及び初任科修了者に対し、初級幹部として必要な学術及び技能を教授

■ 研修科

- 専攻科を修了した後、実用英語能力、国際関係知識等の国際業務対応能力、初級幹部として必要な実務能力を習得(国際業務課程)
- 現場の職員に対し、海上保安業務に必要な専門的な学術及び技能を教授(語学[ロシア語・中国語・韓国語]基礎課程、潜水技術課程など)



本科



専攻科(遠洋航海実習)



研修科(潜水技術課程)





教育カリキュラム

本科（4年間）			
1学年	2学年	3学年	4学年
基礎教育科目 幅広い教養を身につける 共通科目 哲学、文学、法学、法学演習、憲法、経済学、数学、統計情報処理、物理学、物理学実験、化学、化学実験、英語、英会話、保健体育等 選択科目 ロシア語、中国語、韓国語のいずれか			
専門基礎科目 専門教育を受けるため、まず必要な基礎能力を身につける 共通科目 国際政治、政策科学、情報科学、気象学、海洋学、実務英語、リーダーシップ論、国際法、刑法、刑事訴訟法、行政法、民法法等 群別科目 第一群(航海)・第二群(機関)・第三群(情報通信)のいずれか 第一群 航海学、船用計測工学、船体運動工学、海事法、船舶工学等 第二群 材料力学、機械力学、工業熱力学、電気機械工学、原動機工学等 第三群 情報理論、電子回路、通信システム、電磁波工学、通信工学実験等			
		専門基礎科目 複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要な高度な専門能力を身につける 共通科目 海上保安制度論、海上犯罪捜査、捜索救助、海上交通政策学、海上警察権論、国際紛争論、国際海洋法、海上安全学、海難救助工学、特別研究、組織行動論、海上保安演習、海上警察政策等	
訓練・実習科目 職務に直結した特殊技能を身につける 逮捕術、けん銃、武器、端艇・信号、潜水、水泳、救急安全法、小型船舶等			
乗船実習 習得した船舶運航の知識、技能を実際の船上で実践し、業務遂行能力を身につける			
国内航海実習		国内航海実習	

初任科

大学卒業生を対象に、海上保安庁の職員として海上保安業務を遂行するために必要な学術や技能を教授し、あわせて心身の錬成を図る。

初任科修了後、特修科（部内研修）に進むことで、研修修了時に幹部職員としての任用になる。

取得する資格

- ・一級小型船舶操縦士
- ・四級海技士（航海又は機関）の筆記
- ・第一級海上特殊無線技士
- ・第二級陸上特殊無線技士

**専攻科（6か月）
+
国際業務課程（3か月）**

--

--

遠洋航海実習

初任科（1年間）

<p>講義科目 共通科目 海上保安業務概論、救命 消火講習、無線技術 等 航海課程 航海学基礎、航海計器学 基礎 運用学基礎 等 機関課程 蒸気機関学基礎、内燃 機関学基礎 等</p>
--

<p>訓練・実習科目 逮捕術、けん銃、武器、端 艇・信号、潜水、水泳、救 急安全法、小型船舶 等</p>

乗船実習

国内航海実習

特修科（1年間）

<p>共通科目 刑事訴訟法、海上交通法規、 政策分析演習 等 専攻科目 航海学、情報理論、財政学、 地球物理学 等</p>

--

国内航海実習

国内航海実習

本科

高校卒業生を対象に、海上保安
庁の幹部職員として海上保安業
務を遂行するために必要な学術
や技能を教授し、あわせて心身
の錬成を図る。
卒業時に学士（海上保安）が授
与される。

取得する資格

- ・ 学士（海上保安）
- ・ 一級小型船舶操縦士
- ・ 三級海技士（航海又は機関）
- ・ 第三級海上無線通信士
- ・ 第二級陸上無線技術士
- ・ 航空無線通信士 等

幹部への道

巡視船の主任職員として配属された後、能力や適性にに応じて、本庁・管
区本部や航空基地での課長職、または巡視船の船長など、海上勤務と陸
上勤務を交互に繰り返しながら、さまざまなキャリアを積み幹部職員と
なります。





乗船実習

船舶運航に関する航海、機関及び情報通信の各専門分野の知識・技能を身につけるとともに、各種訓練を通じて海上保安業務に関する知識を習得します。

寄港地での見学等によって見聞を広めるとともに、遠洋航海では寄港地の関係機関や市民との国際交流を通じて国際感覚を養います。

国内航海実習

本科1学年 ●九州、四国及び近海

本科3学年 ●瀬戸内海、本州、北海道、四国、九州、南西諸島沿岸及び近海

本科4学年 ●瀬戸内海、本州南東岸、四国、九州沿岸及び近海



操船指揮実習



搭載艇揚降訓練



船内防火訓練

遠洋航海実習

平成6年度から太平洋、パナマ運河、カリブ海、大西洋、地中海、スエズ運河、インド洋等を航海する世界一周の遠洋航海を実施しています。

遠洋航海は、「船舶運航に関する実技の習得、精神力、実践力及び統率力の練成と国際感覚を涵養する」約3ヶ月の航海実習です。



外国海上保安機関施設見学



船上レセプション



パナマ運河通航

練習船いじま



平成5年(1993年)に就役

要 目	総トン数	2,950トン
	全長	115メートル
	幅	14メートル
	深さ	7.3メートル
	速力	約18ノット

(約33km/時)

学生生活

入学時から海上保安庁職員(国家公務員)となり、毎月の給与及び手当が支給されます。
授業料・寄付金等は一切不要で、制服や寝具類は貸与されます。

寮生活

学生・研修生は三ツ石寮と麗女寮(女子寮)・国際交流センターで全寮制による日常生活を送ります。
各学年1名ずつの計4名を基準に構成される「自習室(男女別)」で生活します。



三ツ石寮



麗女寮



国際交流センター



旗章掲揚



課業行進



消灯巡検



食事

日課表

06:30	起床(整列・体操・掃除等)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45	授業
12:00	
	昼食
13:00	
	授業及び体育部活動
17:15	
	夕食・入浴・自習時間
22:15	
22:30	帰校門限
	巡検・消灯

※平日は、17:15以降、22:15の帰校門限まで外出できます。

※金曜日、土曜日及び祝日の前日は原則として門限が22:45となり、外泊もできます。

※日課の運営は訓練教官の指導のもと当直学生により遂行しています。

体育部活動

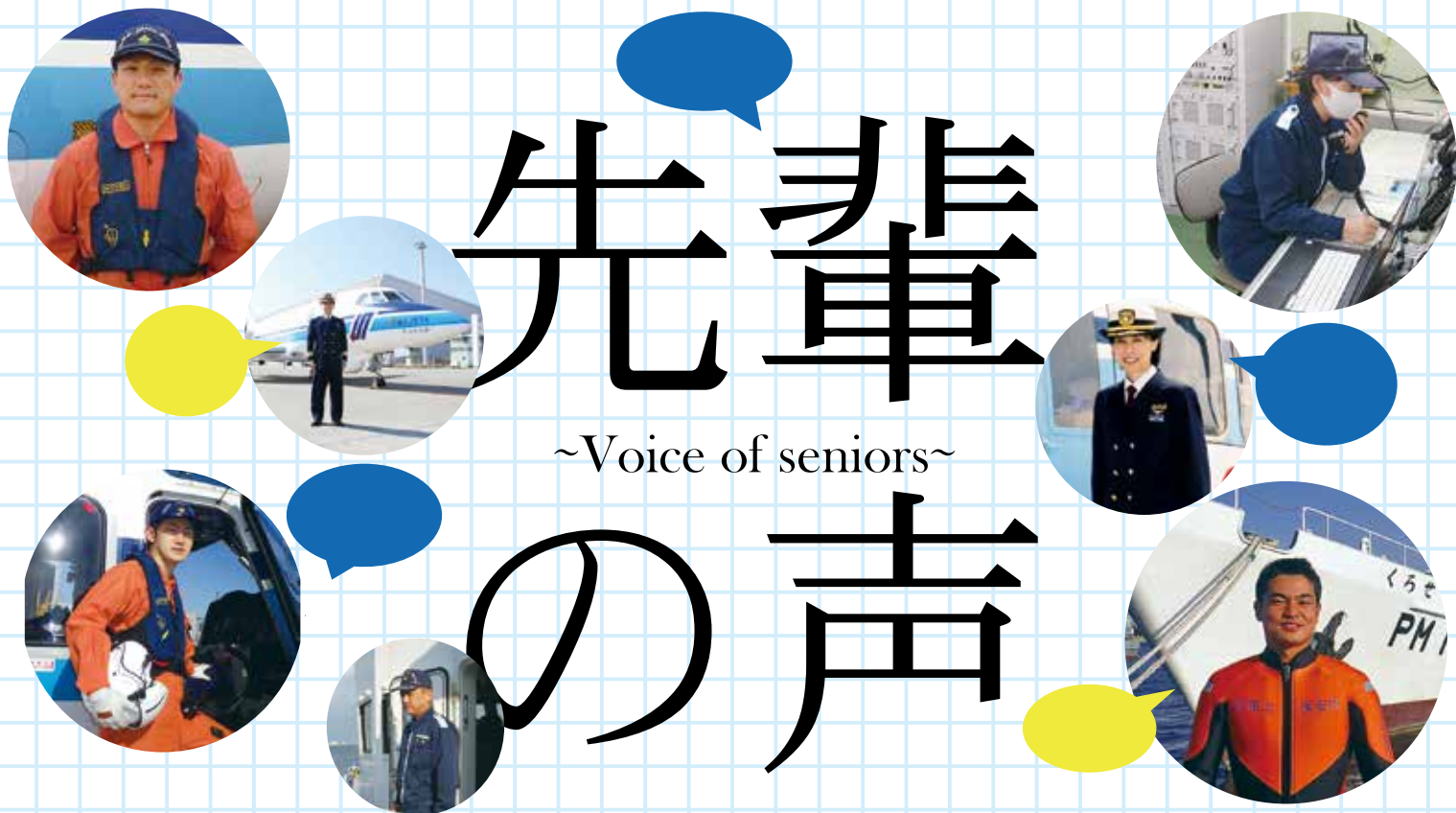
体育部活動は、「強靱な気力・体力の練成」を目的としており、授業、寮生活と並んで重要な活動です。

端艇部、逮捕術部、剣道部、柔道部、水泳部、テニス部、サッカー部、バスケットボール部、野球部、ヨット部、ラグビー部、女子バレーボール部の計12の体育部活動があり、学生はいずれかの体育部に所属します。



端艇部





先輩

~Voice of seniors~

の声

海上保安大学校を卒業し、それぞれの現場で海を守っている先輩達に幹部海上保安官として“仕事のやりがい”について語ってもらった。

INTERVIEW



第45代 海上保安大学校長
鹿庭 義久 (第30期生)

海上保安大学校の卒業生に期待されていることは、海上という現場第一線の厳しい環境下で、「最初に」「最前線で」、困難な任務や新たな課題に向き合ってそれを克服し、毅然と、かつ、冷静に正義を追求し、人命・財産を守り、海を守ることにほかなりません。

更に、海上保安庁の中核を担う各階層の幹部職員として、政策を企画立案実践し、組織全体のマネジメントを担うことも、大切な任務です。

今回、大学校の本科卒業生の皆さんに「幹部としての仕事のやりがい」について語ってもらいましたが、彼らのコメントを読んで、当大学校に興味をもってくれた受験生の皆さんが、次代の海上保安を担ってみようという思いを強くしてくれたとするならば、幸いです。



海上保安庁は、尖閣諸島周辺海域の領海警備を始め、我が国の安全保障に直結する多くの任務を担っている。日々変化する状況の中、国際法や国内法を踏まえた臨機な判断と対応が必要となる。そこで最も尊重されるのは、現場の各級指揮官の判断だ。この機能的な組織運用を可能にしているのが、本庁（霞が関）から現場末端に至るまで浸透している海上保安大学の教育で培った共通の理念と信頼関係だ。

君もこの組織の一員として、海洋の安全保障を担ってみたいか。

第九管区海上保安本部長

白石 昌己（第33期生）

受験生の皆さん、元気ですかっ！

これからどんな職業に就こうか、自身の進路に迷っている皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、「働くということは人生を生きる」ということです。「使命感」や「やりがい」を見出せる職業に恵まれることは、働くということを通して自身が成長し、人生そのものも豊かに生きることができるといことです。

海上保安官という職業にはやりがいと使命感が詰まっています。皆さんが大切と思う人たちの平穏、生まれ育ったこの国の平和を保つため、広大な海で命を救い、悪を追い詰める・・。「正義仁愛」をモットーにするのが海上保安官という仕事であり、そのリーダーを育成するのが海上保安大学校です。

今の時代だからこそ、自身に譲れぬ正義を持ち、世のため・人のためにドラマティックに生きてみませんか！



第三管区海上保安本部
警備救難部長

佐々木 渉（第39期生）



ぐるっと囲まれているのに普段あまり意識しない「海」が仕事場です。海保の仕事の魅力は、どの仕事も、直接的・間接的に人の命を守ることに繋がることと、世界と繋がっていることです。広く興味を持ち挑戦すれば、人生を豊かにできる仕事や人との出会いがあります。転勤が多く、全国に（時に外国にも）行くので、我が子も各地に友達がいます。

保大卒で定年退職を迎えた女性は未だいませんが、私は定年まで働きたいと思っています。

東京保安部 次長

蓮見 由絵（第42期生）





神戸海上保安部 警備救難課長
門上 大介 (第50期生)

人命救助や犯罪取締等の担当として、国民を守る最前線かつ最後の砦との気概の下、陰ながら神戸の海を守っています。卒業後16年、船艇勤務のほか、尖閣警備や捕鯨妨害対策、海賊対策、予算編成等の業務を通じ、官民様々な人との出会いはもとより、物事の捉え方・考え方を多く吸収できたことは正に財産です。大なり小なり組織運営にも携われ、汗を流して得た苦勞（経験）は、少しずつでもより良い組織に反映していけることも魅力です。



私は、羽田航空基地で飛行機のパイロットとして勤務しています。旅客機は、ほぼ同じ飛行経路を時間どおりに飛行しますが、海上保安庁の航空機は、様々な事案や状況に対し、臨機応変に対応しなければなりません。また、海上保安庁の航空機には、パイロットだけではなく、通信士や整備士などが乗組員として搭乗しており、機長（パイロット）は、それら乗組員を指揮しながら航空機を運航します。時にはそれらにプレッシャーを感じることもあります。乗組員それぞれがプロとして役割を果たし無事に任務を全うすることができた際はチームとしての一体感と非常に大きな達成感を感じることができます。



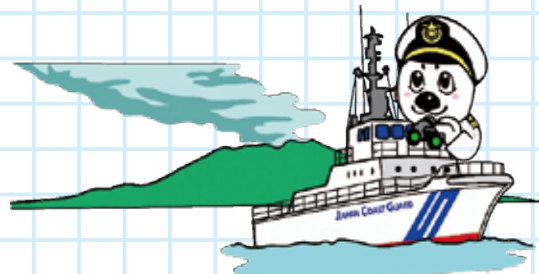
羽田航空基地 主任飛行士
宮本 元気 (第53期生)

私は、高3の夏、海上保安官となることを決断し、30歳の今、巡視艇船長として職務を全うしています。巡視船艇勤務の魅力は、チームとして密に仕事ができることです。人との密が敬遠されるご時世ですが、心の距離近く、阿吽の呼吸によりチームが機能し、多種多様な海上保安業務を完遂する瞬間は、快感に近いやりがいを与え、今だからできる皆さんの決断を将来必ず肯定してくれます。

未だ見ぬ制服姿を関門海峡の巡視艇から心よりお待ちしております。



巡視艇はやなみ 船長
橋詰 崇臣 (第59期生)





巡視船そうや 主任通信士
佐藤 祐貴 (第64期生)

私は現在、巡視船そうやの主任通信士として、巡視船の安全運航のための通信はもちろん、領海警備や急患搬送などの幅広い業務の中で相手船舶や陸上部署との連絡調整役を担っています。

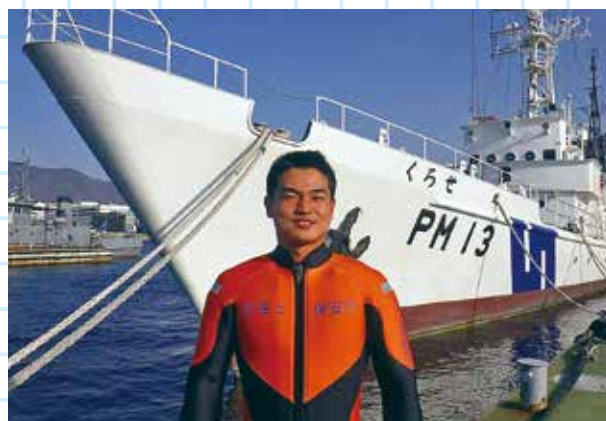
海上保安官に興味はあるけど不安もある皆さんへ。多岐にわたる海上保安業務は陸上・巡視船艇・航空機をあわせたたくさんの海上保安官が連携し、訓練等の緻密な努力を重ねて成し遂げることができるものです。一人で簡単にできるものではありません。漠然とした不安は心の片隅に置いて、大学でしっかり勉強し、ぜひ一緒に日本の海の安心と安全のために働きましょう！



私は、第六管区海上保安本部呉海上保安部巡視船くろせ主任機関士／潜水士の間賀田祥岳です。

潜水士としての主な業務内容は海上における海難救助活動です。

海難救助の現場では、困難な環境が多く、気力体力はもとより高い技術と知識が求められます。そのため、日々の訓練では心が折れそうになることも多々ありますが、その厳しさが人命救助に繋がることを思うと、何物にも代え難いやりがいを感じる事ができ、この仕事に就いてよかったなと思えます。



巡視船くろせ 主任航海士／潜水士
間賀田 祥岳 (第65期生)



海上保安庁航空機課 係員
酒居 奈江 (第63期生)

主任航海士として大型船に2年間勤務し、現在は本庁航空機課に勤務しています。

初めての本庁業務で、更には船艇勤務しか経験のない私にとって航空の世界は、知らないことばかりですが、新しいことに触れ、刺激的な毎日を過ごしています。

航空の世界に来なければ得ることのできない知識を得て、経験を積めることは貴重な機会ですので、常に学びの姿勢を忘れず、今後の成長に繋げていきたいです。





海上保安大学校 〒737-8512 広島県呉市若葉町5番1号
Tel.0823-21-4961 Fax.0823-21-8105



海上保安庁

ホームページ
<http://www.jcga.ac.jp>

